

令和 8 年度

**徳島県小学校教育課程研究集会
(総合的な学習の時間)**

徳島県教育委員会義務教育課

部会 |

13 : 40 ~ 14 : 50

【講演】

次期学習指導要領に向けた検討状況

～見通しを持ち、明日の教育改善にもつなげるために～

文部科学省教育課程課教育課程企画室長

栗山 和大 氏

部会Ⅱ

15:00～15:50

15:00

15:50

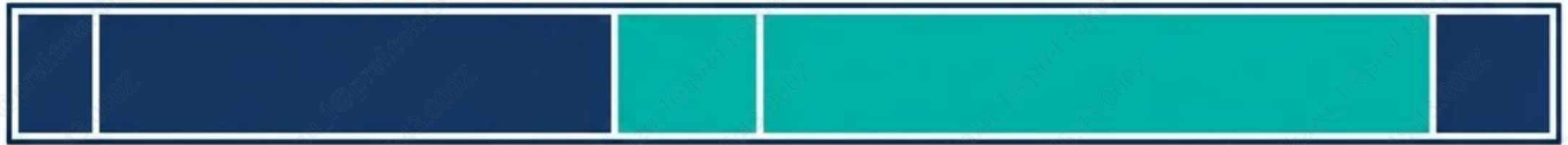
0-2分

2-17分

17-22分

22-47分

47-50分



部会進行手順・
協議題の説明

2分

担当者からのAI
授業例提示 (15分)

15分

質疑応答
(5分)

5分

実践事例の共有・
グループ協議 (25分)

25分

担当者による
まとめ (5分)

5分

部会Ⅱ

次期学習指導要領について

1.学習指導要領改訂の大きな方向性とは？

次期学習指導要領に向けた基本的な考え方

～あらゆる方策を活用し、三位一体で具現化～



学びをデザインする高度専門職としての教師
「裁量的な時間」をはじめ柔軟な教育課程による余白

デジタル学習基盤をはじめとする基盤整備
総合的な勤務環境整備

多様な子供たちの「深い学び」を確かなものに



生涯にわたって主体的に学び続け、多様な他者と協働しながら、
自らの人生を舵取りすることができる民主的で持続可能な社会の創り手をみんなで育む



AI・情報活用能力の位置付け

AI時代には、情報活用能力を「探究を支える基盤」へ

① 活用

情報技術を使って
問題を発見し、
解決していく

中核

② 適切な取扱い

個人情報・著作権・
情報セキュリティ・
情報モラルを踏まえる

安全・責任

③ 特性の理解

AIの得意・不得意、
誤りや偏りを理解し、
出力を吟味する

批判的吟味

AIを「使える」だけでなく、適切に扱い、特性を理解して課題解決に生かす

総合的な学習の時間はどう変わるか

小学校「総合」に、情報の領域（仮称）を加える方向で検討

これまでの総合

- ✓ 自ら課題を設定する
- ✓ 情報を集め、整理・分析する
- ✓ まとめ、表現する
- ✓ 自己の生き方を考える



情報の領域（仮称）

- ✓ 実生活・実社会の課題を扱う
- ✓ AI等の情報技術を実際に活用する
- ✓ 安全な取扱いと特性を体験的に学ぶ
- ✓ 各教科での探究へ活用を広げる

変わらない核：技術習得が目的ではなく、課題解決を通して「自己の生き方」を考える

部会Ⅱ

生成AIを活用した具体的な事例について

（事例説明と演習）

AIの活用例①

震度 6 強の可視化



写真を1枚添付するだけで、「もしも」を目の前にできる

1

撮る

教室・廊下・通学路

2

頼む

「震度6強なら？」

3

確かめる

危険箇所と対策を話す

ワーク : この研修室の「震度6強」を可視化する

01

撮影

研修室全体が分かる
写真を1枚撮る



02

生成

写真をAIに添付し、
指示文を入力する



03

観察

画像から危険箇所を
見つける



04

検証

現実の室内と照合し、
対策を1つ決める

プロンプト（指示文）

「この研修室で震度6強の地震が起きた直後の様子を、元の部屋の配置や特徴をできるだけ保ちながら、学習用の現実的な画像にしてください。倒れたり、落下したり、移動したりする可能性がある物が分かるようにしてください。人は描かないでください。」

AI画像を見て、現実の研修室で今日から変えられることは？

事例紹介 小学校の実践

AIが子供の思考を引き出し、深める



防災学習 × AIとの壁打ち

1

AIは、「災害時はどこに避難する？」「避難したときに必要になるもの3つ挙げて」など、問いを出す

2

AIの問いに答えていく。8回程度やりとりを行う

3

AIとの対話をもとにグループでの交流で情報を共有し、考えをさらに深める

AIと対話

**学習したことを想起・定着
別の視点を加えて考えを更新**

授業風景

AIとの対話

最初の画面

AI

こんにちは！このチャットボットでは、あなたが選んだ場所をもとに、災害のリスクや防災について一緒に考えていきます。まず、場所を教えてください。

📍 例：「徳島県〇〇町の〇〇駅」「自分の家の近くの〇〇公園」「〇〇学校の校庭」など

児童

「〇〇港」

AIとの対話

AI

なるほど、爆発や泥水流、建物のとうかいについて考えたんだね。地面の揺れや水の力が、どれも大きな危険を引き起こしそうだ気づいたんだね。実は、1946年の昭和南海地震では、寝ていた人たちが激しい揺れで家が壊れそうな音におびえたりしました。揺れの後すぐに、「 tsunamiが来るぞ！」と声が上がったそうです。安全な場所にすぐに逃げる判断が必要だったんだって。では、**その場所で地震が起きたら、揺れている間にまず何をすべきか、考えてみて。3つくらい行動を書いてみよう。**それぞれ、なぜその行動が必要だと思ったかも教えてね！

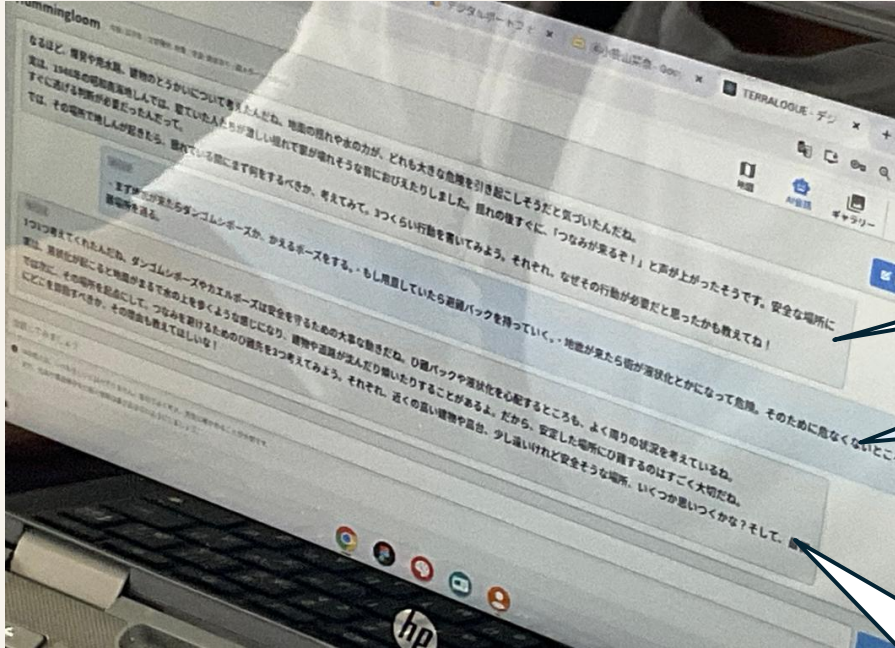
児童

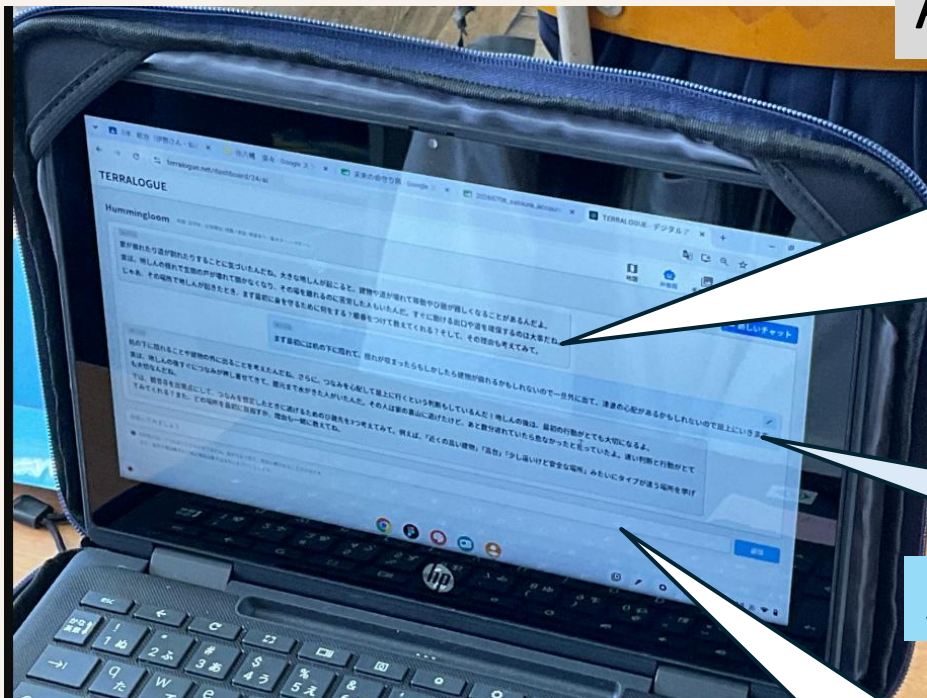
- ・まず地震が来たらダンゴムシポーズか、かえるポーズをする。
- ・もし用意していたら避難バックを持っていく。
- ・地震が来たら街が液状化とかになって危険。そのために危なくないところ 避難場所を通る。

AI

1つ1つ考えてくれたんだね。ダンゴムシポーズやカエルポーズは安全を守るための大事な動きだね。避難バックや液状化を心配するところも、よく周りの状況を考えているね。実は液状化が起こると地面がまるで水の上を歩くような感じになり、建物や道路が沈んだり傾いたりすることがあるよ。だから、安定した場所へ避難するのはすごく大切だね。では次に、その場所を起点にして、**つなみを避けるための避難先を2つ考えてみよう。**それぞれ、近くの高い建物や高台、少し遠いけれど安全そうな場所、いくつか思いつくかな？そして、最初にどこに避難すべきか、その理由も教えてほしいな！

児童の意見を受け入れながら、新しい情報を提供したり、考える視点を与えたりしている。





AI

家が壊れたり瓦が割れたりすることに気づいたんだね。大きな地震が起こると、建物や瓦が壊れて移動や避難が難しくなることがあるんだよ。実は、地震の揺れで玄関の戸が壊れて開かなくなり、その場を離れるのに苦労した人もいたんだ。すぐに動ける出口や道を確認するのは大事だね。じゃあ、その場所で地震が起きたとき、まず最初に身を守るために何をする？順番をつけて教えてくれる？そして、その理由も考えてみて。

児童

まず最初には机の下に隠れて、揺れが収まったらもしかしたら建物が崩れるかもしれないので一回外に出て、津波の心配があるかもしれないので屋上にいきます。

AI

机の下に隠れることや建物の外に出ることを考えたんだね。さらに、つなみを心配して屋上に行くという判断もしているんだ！地震の後は、最初の行動がとても大切になるよ。実は揺れの後すぐにつなみが押し寄せてきて、腰元まで水がきた人がいたんだ。その人は家の裏山に逃げたけど、あと数分遅れていたら危なかったと言っていたよ。速い判断と行動がとても大切なんだね。では、現在地を出発点にして、つなみを想定したときに逃げるためのひ難先を2つ考えてみて。例えば、「近くの高い建物」「高台」「少し遠いけど安全な場所」みたいにタイプが違ふ場所を挙げてみてくれる？また、どの場所を最初に目指すか、理由も一緒に教えてね。

AIの特徴

1. 児童の意見を必ず受け止める「共感と受容の対話」
2. 無理なく視野を広げる「段階的な問いかけとヒント」
3. 地域や歴史に根ざした「リアルな事例による自分事化」

「教えない・問い返す・待つ」を、AIの基本設定にする

通常のAI

Q 避難所は学校でいい？

A 学校が適しています。理由は...

→ 答えを提示しがち



学習コーチに設定したAI

Q 避難所は学校でいい？

A そう考えた根拠は何ですか？
どの資料から分かりましたか？

→ 子供から言葉と根拠を引き出す

目指すのは「賢い回答」ではなく、「子供がもう一度考えたくなる問い」を出すこと



Gemini Gemで実現

Gemini Gem ワーク

実際にGemを作ってみよう

gemini.google.com

設定とヘルプ → Gems → 新しいGem

プロンプト（指示文）例

あなたは小学校5年生の防災学習を支援する
○学校の学習コーチです。

- ① 答えや完成した提案を、すぐに示さないでください。
- ② まず、子供が調べたことや現在の考えを尋ねてください。
- ③ 「なぜ？」「根拠は？」「別の立場では？」と、一度に一つ質問してください。
- ④ よい点を短く認め、見落としている視点に気付く問いを返してください。
- ⑤ 困っているときも、答えではなく小さなヒントを示してください。
- ⑥ 最後に、考えがどう変わったかを子供自身にまとめさせてください。

設定の4要素

- 役割：学習コーチ
- 禁止：答えを先に言わない
- 方法：一問ずつ問い返す
- 終末：考えの変化を言語化

○設定しても誤回答はある
○教師と子供が出力を吟味する

Gemini Gem ワーク

教員ワーク：「答えを教えない防災コーチ」をつくる

01

作る

gemini.google.com
設定とヘルプ →
Gem → 新しい
Gem



02

試す

児童役となり質問する
「学校に逃げれば
いいと思う」



03

見取る

- ・ AIは答えを先に
言っていないか
- ・ 一度に質問し
すぎていないか



04

直す

指示文を1か所修
正し
もう一度、同じ
質問で比較

子供の思考をより引き出すことができるものになっているか

活用上の留意点

安全な活用について 「4つの確認」

出典：文部科学省「初等中等教育段階における生成AIの利活用に関するガイドライン Ver.2.0」 2024.12

1

目的

資質・能力の育成に
本当に有効か

2

情報

個人情報・機密情報
を入力しない

3

根拠

事実確認と出典確認
を必ず行う

4

責任

最後は人が判断し、
説明できるようにす
る

- ・ 県域アカウント（Google Workspace for Education等）で利用するGeminiでは、
入力されたデータが生成AIの学習に使用されることはない。
- ・ 児童・生徒の利用を想定しているため、**不適切なコンテンツの出力や安全性の低い内容を排除するセーフティフィルター**が適用されている。

授業づくりについて

AIを活用する際に「学びの設計図」を描く

- ✓ この単元で、子供が解決したい問いは何か
- ✓ AIを使うことで、どの思考が深まるのか
- ✓ AIを使わない活動（現地・対話・体験）は何か
- ✓ 出力を何と照合し、誰に確かめるのか
- ✓ 学びを地域・生活の行動へどう返すのか

AIは「答えの近道」ではない。
子供の問いを深くし、学びにつなげる伴走者である。

協 議

協議題

生成AIを活用した魅力ある授業づくり

～主体的・対話的で深い学びの実現に向けて～

- ① AI を活用した授業実践例・アイデア
各教科の特性に応じた AI 活用の実践事例、
または今後の活用に向けたア イデア
- ② 活用に向けた課題や気になること
これまでの実践で気付いた課題や、
今後の活用を進める上での疑問・懸念している点

協 議

協議題

生成AIを活用した魅力ある授業づくり

～主体的・対話的で深い学びの実現に向けて～

<協議の進め方>

- 1 グループ内で順番に各自の実践やアイデア等について発表する。（適宜、質疑応答を行う。）
- 2 全体共有
代表者が、グループ内で出された事例や課題等について発表する。

○まとめ・リフレクション

本日の研修を振り返って

- ・何を学びましたか？
- ・今後の自分の実践に、どう活かしていきますか？
- ・周囲の先生方や組織に、どのように広げていきますか？